

現在の教育委員会制度における教育委員 (昭和31年以降)

委員職名	(氏名)	(地区)	(就任年月日)	(辞任年月日)
委員長	長東有郎	松原	昭・31・7・5	昭・35・7・4
委員	佐熊茂	松原	昭・31・7・5	昭・35・7・4
委員	渡瀬近	伊湊	昭・31・7・5	昭・35・7・4
委員長	赤澤治徳	伊湊	昭・31・7・5	昭・35・7・4
委員	森川長三郎	与田山	昭・31・7・5	昭・35・7・4
委員	大西定一	白鳥	昭・32・12・23	昭・34・7・15
委員長	葉島祐太郎	東山	昭・34・9・29	昭・36・7・8
委員	木村照吉	東山	昭・35・7・4	昭・37・6・2
委員長	川田崇作	松原	昭・35・7・4	昭・37・6・2
委員	橋本 農	五名	昭・36・7・3	昭・37・7・3
委員長	辻野徳次郎	与田山	昭・37・6・9	昭・42・7・2
委員	鎌田義満	松原	昭・38・7・3	昭・43・7・3
委員長	安西静夫	白鳥	昭・42・7・3	昭・50・7・2
委員	石原茂雄	五名	昭・43・7・4	昭・55・7・3
委員長	清川兼義	西山	昭・43・7・4	昭・50・7・3
委員	大山許一	松原	昭・45・7・8	昭・49・7・7
委員長	橋本安信	松原	昭・50・7・3	昭・53・7・7
委員	久詰忠明	白鳥	昭・49・7・3	昭・53・7・7
委員長	松岡正雄	入野山	昭・51・7・4	昭・55・7・3
委員	木村太郎	五名	昭・53・3・20	昭・57・6・21
委員長	安西竹雄	白鳥	昭・53・6・22	昭・57・6・21
委員長	田淵清治	松原	昭・53・7・8	昭・57・6・21
委員長	西原忠一	松原	昭・57・7・1	昭・57・6・21

(参考資料・出典)  
 大日本百科事典(小学館)  
 教育学大事典(第一法規)  
 世界教育事典(行政)  
 現代家庭教育事典(第一法規)

社会教育行政必携(第一法規)  
 香川県教育史(香大学芸同窓会)  
 香川県の歴史(山川出版社)  
 白鳥昔語り(金谷健次郎)

元号	西暦	記 事
天保 四年	七三二	夏干ばつ。五穀実らず。
弘仁 八年	八一七	大干ばつ。
仁寿 二年	八五二	八〇日干ばつ続く。悪疫流行。
仁和 四年	八八八	大干ばつ。
永保 二年	一〇八二	大干ばつ。
建徳 元年	一三七〇	六月八日から八月一五日まで干ばつ。
弘和 元年	一三八一	三月下旬から八月下旬まで干ばつ。
元中 三年	一三八六	一〇〇日干ばつ。
元中 七年	一三九〇	大干ばつ。
応永 三年	一三九六	七月二日から九月二日まで大干ばつ。
〃 四年	一四〇七	五月一八日から八月一五日まで大干ばつ、大ききん。
〃 五年	一四〇八	四月一六日から八月二日まで大干ばつ。
〃 九年	一四一二	六・七月干ばつ。
永享 五年	一四三三	五月から一〇月まで干ばつ。牛馬疫病。
〃 六年	一四三四	大干ばつ。
長祿 元年	一四五七	干ばつ。五穀実らず。
〃 三年	一四五九	干ばつ。五穀実らず。
寛正 元年	一四六〇	干ばつ。八月大雨。五穀実らず。
〃 三年	一四六一	大干ばつ。
文明 三年	一四八五	夏干ばつ。
〃 七年	一四八八	干ばつ。
〃 八年	一四八六	干ばつ。
文龜 元年	一五〇一	大干ばつ。ききんのため各地で餓死。
〃 三年	一五〇三	大干ばつ。七月一七、一八日、炎熱のため、山野や家の周囲の竹林の竹が割れる。
弘治 二年	一五五九	五月から八月一五日まで干ばつ。
〃 六年	一五六三	四月下旬から八月中旬にかけて大干ばつ。
天正 元年	一五七三	八月二日大風洪水。
〃 二年	一五七四	大干ばつ。
〃 六年	一五七八	四月から九月にかけて、長雨が続き。

現代教育用語事典(第一法規)  
 同和对策提要(厚生省)  
 社会教育行政(第一法規)  
 社会教育の方向(帝国地方行政)

第十三章 災 害

災害には、自然災害と人災がある。自然災害には、風水害、干害、地震、冷害等があり、人災には、火災、各種の公害・交通災害などがある。香川県は、他府県に比べて暴風雨による風水害・地震の被害は割合に少ないが、それでも風水害の被害は大きく、特に藩政時代の災害は局地的に大打撃を与えることが多く、讃岐藩はその都度難民に救恤米を与える等の施策をとったが、庶民は苦難にあえぐことが多かった。また、干害には上古より悩まされ、雨乞い祈願をしたり、溜池を築造したり並々な努力を払って来た。讃岐の歴史は換言すれば干害との戦いの歴史であったとも言える。

太平洋戦争終了後は、戦争中長い期間にわたって国の治山治水事業は停滞し、また戦争の要請から森林の濫伐が行われた結果、水源山地が極度に荒廃し、それが大きな災害を誘発した。また昭和三十年代からの高度経済成長の影響により自然破壊が急速に進み、人災と相まって自然災害の被害が大きくなってきた。

上古より現在までの白鳥町における災害の状況は次のとおりである。

1 白鳥町災害年表(台風とは風速一七メートル以上を言う)

〃 七年	一五七九	八月一日、大洪水。
〃 二年	一五八四	一月二九日大地震。年越ししても続く。
慶長 元年	一五九六	うるう七月二日地震。各地で山崩れ。
〃 二年	一六一四	一〇月二五大地震。
寛永 二年	一六二五	うるう四月七日風雨、その後干天続き、七月一三日まで、九五日間雨降らず大干ばつ。餓死者多数。一月大地震。
寛永 三年	一六二六	うるう四月七日風雨、その後干天続き七月一三日まで、九五日間雨降らず大干ばつ。餓死者多数。
〃 四年	一六二七	九月四日大地震。九月二日暴風雨。
〃 一年	一六三四	高松に大火。(一月一五日)
〃 二〇年	一六四三	四月下旬から六月まで雨降らず、大干ばつで凶作。
正保 二年	一六四五	大干ばつ。五穀実らず。矢延平六池築造。
承応 三年	一六五四	夏干ばつ。秋、大風洪水、餓死者が出る。
明歴 三年	一六五七	五月大風洪水。
万治 二年	一六五九	五月地震。
寛文 元年	一六六一	夏大ひょう降る。
〃 二年	一六六二	夏、大地震、高松城 乾槽落ちる。
〃 八年	一六六八	夏大地震、高松城乾槽落ちる。
延宝 元年	一六七三	五月一四日大水。八月一七日
〃 七年	一六七九	八月四日大水。
天和 元年	一六八一	八月六日大風洪水。死者多数出る。世に「辛酉洪水」という。この年穀実らず。
貞享 四年	一六八七	大洪水、高松城の堤崩れる。
元禄 三年	一六九〇	六・七の両月、干ばつ。
〃 四年	一六九一	九月九日大風雨。
〃 八年	一六九五	七月二日、大風洪水。五穀実らず。
〃 二年	一六九八	夏干ばつ。
〃 一年	一六九九	夏干ばつ。
〃 五年	一七〇二	七月二八日、八月三〇、大雨洪水。秋、いなご多発し凶作。
宝永 元年	一七〇四	八月一〇、九月一日、大雨洪水。民飢える。一〇月四日、地震。

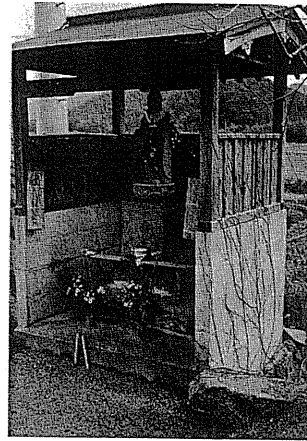




享保六年(一七二二)、七月大風雨洪水ありて、前年の大風洪水と連年の災害で飢民多く巷に満ち、又翌年享保七年(一七二二)六月八月、大風洪水、殊に八月二十三日の大風洪水に於ては溺死者百人を超えた。安永元年(一七七二)、八月十日大風雨となり家屋の崩壊一万九千余戸死者六十余人、難波船百四十余隻、牛馬の水死七十余頭其の他池河川の堤防の破損多数で当時としては未曾有の災害であると記録されており、高松藩では金穀を投じて災害を救う。

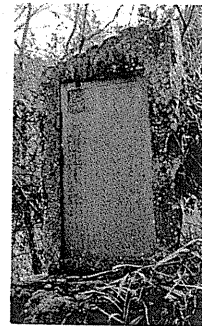
天明二年(一七八二)、二月大風、五月二十五日より六月二十三日まで雨降り続き大洪水となり稲田の湛水数千町歩、民家流失二百三十余戸に達した。白鳥町に於いても、千光寺南山裾の供養墓碑「天明二年(一七八二)八月、三界萬忌」の碑にみられる如く当時の災害は夥しいものがあつたように考えられる。今この千光寺奥に溜池の堤防の一部を残しているのがみられるが、ぜんも池の堤防の一部分で、この当時の災害で流失したものと思われる。

文化十四年五月より七月に至る間、大旱魃、九月九日大風雨、人馬の溺死多数を数える。



西山の悲願地藏

安政元年(一八五四)、十四日、十五日、大地震民家破損三千余戸池の堤防欠消破損数百の多きのほり、余震久しく続き人なみ屋外に避難をする。



災害林野復旧工事之碑

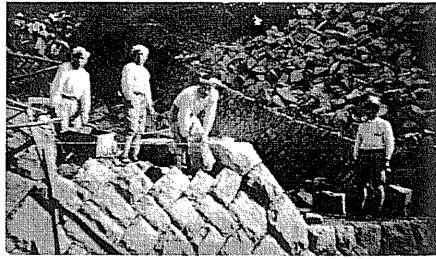
由來友森川上流は歳々の降雨に氾濫相続き下流の地域を免に実害を蒙ること尠からず之れら復旧工事を要望するの切なるものありしが昭和八年災害林野復旧事業の行はるに当り

碑文

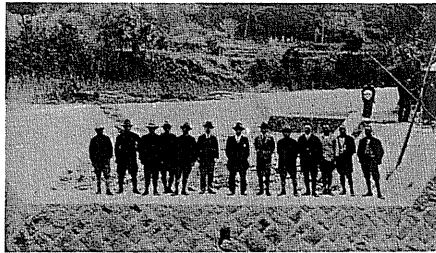
碑の建立地 白鳥町与田山字森兼甲五〇一  
碑の大きさ 高さ一・五尺 巾〇・九尺  
昭和六年十月十二日、台風による被害で、昭和九年四月三十日林野復旧工事が完成したので、災害林野復旧工事之碑が次のように建立されている。

慶応二年(一八六六)八月一日より八日まで暴風雨がつづいた。白鳥町の災害については、一部その状況がはつきり記録されているのがみつかった。湊川上流福栄西橋上手堤防の欠潰の記録である。西山字新田面の県道端の路傍の悲願地藏に刻まれている「悲願金剛嘉永四年(一八六八)玄霜月、施主藤井利右衛門、白鳥、平吉、石工、松蔵、慶応二寅(一八六六)八月七日夜四ツ時(今の午後十時)比古今稀成未洪水面川堤崩此辺如鳴戸大淵ト成流家六十棟死人十一人其外難難後世為心得是略記」この地藏については、建立者が災害年よりも十五年程遡年であることに疑問をもったが、この悲願地藏建立後の被害をうけ、後ほどこの記録を刻したということの問題は解消した。なお、施主、石工等は如何なる人であるかも知ることが出来た。ここでは省略する。

県会議員渡瀬貞氏はこれら復旧工事之緊要なると又一面部落救済のため逸すべからざる好機となし鋭意県当局に折衝せられ本県災害林野復旧費中より巨額の交附を受けて工事を施行するに至れり実に県下此の種事業に見る寡数というべく茲に於て昭和八年十月十四日より主任技師永峰小太郎氏指導のもとに設計共に現場監督農林技手坂本善助氏林業助手藤澤幸雄氏の指揮に従ひ部落民躍如として工事に従事し、着々進捗昭和九年四月三十日茲に堰堤護岸工事の俊成を見るに至れり  
昭和九年四月三十日  
樹邨 照撰拜書



昭和6年10月12日台風被害の林野復旧工事をしている状況 (友森川上流地点)

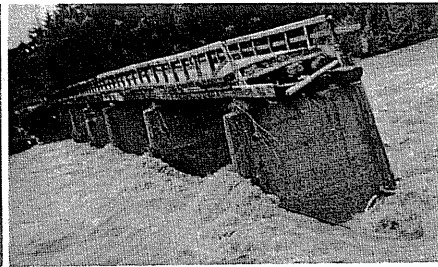


昭和6年10月12日台風被害の林野復旧工事が完成して関係者が立ち並んでいる状況 (友森川上流地点)

(3) 昭和三十六年 第二室戸台風  
九月十六日台風一八号が来襲し、その規模経路等が昭和九年の室戸台風と類似していたので第二室戸台風と命名された。中心示度八九〇弱、中心付近の最大風速秒速一〇〇弱、暴風半径三七〇歳の超大型台風であ



昭和36年9月18号(第2室戸)台風災害  
香川県立白鳥病院湛水の状況



昭和36年9月18号(第2室戸)台風災害  
橋流失の現状(神越橋)



昭和36年9月18号(第2室戸)台風災害  
白鳥神社前湛水の状況



昭和36年9月18号(第2室戸)台風災害  
旧白鳥郵便局前湛水の状況

昭和五十一年台風一七号による被害

図面番号	名 称	地区名	工 種	被害金額(千円)
③	与田川	行成川	河 川	二、二四二
②	入野山	タライガ谷川	〃	一、一〇七
〃	〃	三宝寺川	〃	二二、七二五
〃	〃	佐尾寺川	〃	二二、九四四
〃	〃	堀池川	〃	四、八九四
〃	〃	泉畑川	〃	一、九一三
〃	〃	多險谷川	〃	二七六
〃	〃	定久川	〃	五三四



大谷中池被災の状況

(8) 昭和五十一年台風一七号  
九月八日から十三日まで延々六日間降雨が続き、総降雨量は、白鳥町役場で二二五〇mmを記録し、町の年間雨量に匹敵する量となり、その被害は未曾有のものとなった。  
家屋の損壊四棟、浸水家屋一六七戸のほか、農林、土木、商工関係など被害総額約一三億八三二八万円にのぼった。被害の詳細な状況は次のとおりである。

図面番号	名 称	地区名	工 種	被害金額(千円)
⑥	東山	薄田	河 川	三、四六一
⑤	白鳥	善福寺	〃	一、四七一
④	伊松	前山	〃	二、一九九
〃	〃	風呂谷	〃	四、四五四
〃	〃	宮尻	〃	一、五三八
〃	〃	池尻	〃	二、二四六
〃	〃	口船	〃	九四二
〃	〃	小屋	〃	四七五
〃	〃	太郎	〃	一、六三三
〃	〃	村上	〃	七八四
〃	〃	榎原	〃	六二七
〃	〃	尾端	〃	七四五
〃	〃	太郎	〃	七六〇
〃	〃	掛橋	〃	六九五
〃	〃	大影	〃	一、八五九
〃	〃	堂床	〃	四、九六九
〃	〃	大谷	〃	二、七四二
〃	〃	鳥谷	〃	一、二七五
〃	〃	下伊	〃	五、〇五四
〃	〃	水任	〃	一、五五八
〃	〃	伊座	〃	一、五六〇
〃	〃	中座	〃	一、五六三
〃	〃	先祖	〃	一、〇四五
〃	〃	東谷	〃	二〇、四五八
〃	〃	四房	〃	一三、七六四
〃	〃	古川	〃	二、一三九
〃	〃	戸川	〃	四、三七九
〃	〃	新石	〃	三、八五〇
〃	〃	正行	〃	二、八六七
〃	〃	薄田	〃	六、三八一

(5) 昭和四十九年台風八号  
白鳥町では、七月六日朝から降り始めた雨は、午前九時より七日午前一時までの一六時間に五名ダムで二三四・五mm、与田山では三七五mmを記録。特に午後八時から九時までの一時間に与田山で六五mmを観測した。六日午後三時五〇分消防団招集、午後七時災害対策本部を設置して各河川溜池の防災作業及び警戒にあたった。排水設備は正午過ぎよりフル回転で排水に努めたが、雨量はそれを上回り、住宅など各地で浸水等の被害が続出した。  
白鳥町被害総額四億七三三万円 建物一棟半壊一棟 一部損壊二棟 床上浸水三八二戸 床上浸水一九七七戸 商工関係一億九〇〇万円 道路一損壊一四か所 橋梁一流失一か所(神越橋) 河川堤防決壊一五二か所



昭和49年山崎池災害  
山地崩壊により溜池埋没の被害状況

昭和四十九年台風八号による被害

災害地区名称	工 種	被害金額(千円)
田ノ口	溜池	一六、三三五
新山	溜池	七、四一一
山崎	溜池	三、三三三
政本	溜池	三、〇二二
出頭	橋梁	四、九〇九
須崎	〃	五、一四五
外原	〃	五、〇九九
垣内	〃	六、八四九
瓜生	〃	三、〇三八
原野	〃	三、一〇〇
水野	〃	三、四八七
溜池	〃	三、九〇〇
水溜	〃	四、五八二
田ノ口	〃	四、〇五八
田ノ口	〃	四、〇五八

(7) 昭和五十年台風六号  
八月二十二日台風六号が来襲し、五名ダムで三二四mmを記録した。午後三時水防本部設置。町職員、消防団員により河川等の警戒にあたった。被害総額二億三三三万円。  
(6) 昭和五十年 水島石油流出事故  
一月二日、流出石油が白鳥町海岸一帯に漂着した。白鳥町では回収対策のため、消防六二名、役場職員四〇名、本町漁協三〇名、釣クラブ四〇名、湊漁協二三名、地区住民一〇〇名、計二九五名が九時より一七時までに漂着石油を人海戦術によって除去し二五五本のドラム缶に収集した。



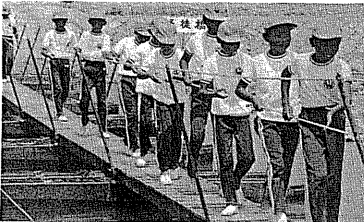




湊川で陸上自衛隊が軽架橋の訓練をしている状況



湊川堤防で越流防災のため3段積土工の訓練をしている状況



湊川で応急軽架橋を白鳥小学校児童50人が対岸に避難訓練をしている状況

この切り下げた堤防の兩岸に石柱を建て、水門を作り洪水時には水害防止の方法としている。また、洪水時になっても橋が流失しない方法として、写真Bのような、鉄筋コンクリートによる床板橋（潜水橋）が作られるようになった。

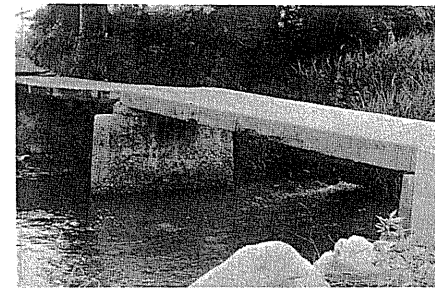
香川県総合防災訓練  
昭和五十九年八月八日湊川河川敷で防災訓練が行われた。この防災活動は、防災機関と住民が一体となった人命救助・災害応急対策などの総合訓練であった。訓練には、白鳥・大内・引

田・津田四町の各消防団、大川広域本部など二五団体七五〇人陸上自衛隊ヘリコプター、車輛七四台が参加し、避難訓練では、陸上自衛隊が湊川に架設した応急軽架橋を渡って対岸に避難。訓練は四時間で終了した。

白鳥町に於ける最近の主な災害（施設等）被害額調

資料（査定額・大川事務所土地改良課・白鳥町建設課） 単位千円

施設等種類 災害年次	農地		河川		溜池		町道		農道		水路		頭首工		橋梁		合計	
	箇所数	被害額	箇所数	被害額	箇所数	被害額	箇所数	被害額	箇所数	被害額	箇所数	被害額	箇所数	被害額	箇所数	被害額	箇所数	被害額
36	21	4,074			11	6,761			1	102	13	3,405	12	5,997	14	2,661	51	23,000
50	24	9,511	90		12	6,815			14	10,467	39	7,711	4	3,759	3	1,026	73	49,289
51	51	22,933	87	183,986	48	101,801	25	26,140	24	16,587	85	102,566	11	66,594	3	4,181	337	526,405
54	35	17,479	11	100,894	10	8,867	12	10,195	5	2,790					16	16,592	165	156,817
55	2	1,209			2	4,153	14	26,140	3	2,353					6	2,302	38	55,440
57	3	1,332	25	36,305	2	2,038	7	7,648	3	1,558					4	4,345	44	53,226



水害防止の為に作られている潜水橋（天王橋）



水害防止の為に作られている水門（大正6年に天王集落の東側湊川堤の上に一部の石柱が残っている。）

3 災害防止

昭和三十六年十一月十五日災害対策基本法が公布せられ、それに基づいて、白鳥町防災会条例、白鳥町水防協議会条例が制定せられた。この条例に基づき、白鳥町防災計画書が策定せられ、町長を防災会議の会長として教育長・消防団長その他数名の委員を委嘱し迅速で効果的な対策を実施できるような体制が固められた。また非常災害の場合には、白鳥町災害対策本部条例により対策本部を設置し、町長を本部長として非常災害に対応できる体制ができています。

部条例により対策本部を設置し、町長を本部長として非常災害に対応できる体制ができています。

災害防止の方法として昔から色々な方法を考えられて、これを実施されているが、この内最も簡単な方法として防災を考えられるのが写真Aにあるように堤防は通常川を渡る道として切り下げ通行の便をはかり、